テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14　備忘ログ(PATCH2.0)　サブクエスト

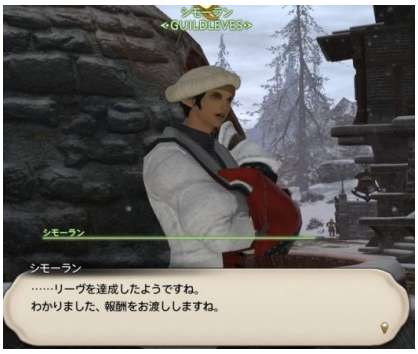
クルザス編

©2010－2014 SQUARE ENIX CO.,LTD.All Rights Reserved. FINAL FANTASY XIV

ギルドリーヴ開放「アドネール占星台」

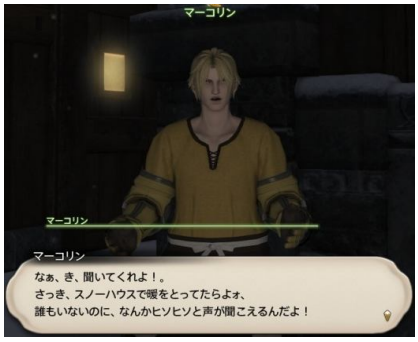
シモーラン ： 私は冒険者ギルドに所属する、シモーランと申す者です。冒険者の方、「ギルドリーヴ」の依頼を受けてみませんか？
「ギルドリーヴ」は、魔物退治や物資の調達など、「アドネール占星台」周辺より寄せられる依頼のこと。
私は、これを整理して、冒険者に斡旋しております。
ですが……依頼を引き受けたいとおっしゃるなら、まずは私に、貴方の実力を見せてください。
中には危険な依頼もありますゆえ、心配なのです。
……このリーヴを見てください。これは私の扱っている依頼のひとつです……
まずは貴方に、このリーヴを達成していただきたいのです。
……我が故郷クルザスを蝕む、ドラゴンの眷属……「レッドエイビス」退治の依頼です。
かの眷属は「バリトンダイルの肉」が好物です。「スナップジョー」を倒して、この肉を手に入れ、
「設置地点」に使えば、おびき寄せられます。
もし、近くに「レッドエイビス」がいない場合には、別の「設置地点」で試してみてください。

シモーラン ： ……リーヴを達成したようですね。わかりました、報酬をお渡ししますね。
これならば、安心して依頼を任せられそうです。では、この先もよろしくお願いします。



雪の闖入者

マーコリン ： なぁ、き、聞いてくれよ！。さっき、スノーハウスで暖をとってたらよォ、
誰もいないのに、なんかヒソヒソと声が聞こえるんだよ！
た、頼む。原因をつきとめてくれないか！？　じゃねェと、怖くて夜も眠れねェよぅ！



雪だるま ： オはろー　俺　雪ダルマ。……ヤバイ……ヤバイヨ……。溶ケカカッテル　完全ニ溶ケカカッテル……。
人ノ夢ト書イテ「儚イ」……何カ物悲シイワネ……。誰カ俺ヲ　励マシテ　クレナイカナ……。

雪だるま ： ムキーッ！　オ前　気持チガ　コモッテナイ！　ソンナ　冷タイ態度ジャ　ダメ！　……アッ　俺ノ方ガ　冷タイカ。

雪だるま ： フフン　人間ニ　気ヲ使ワレルノモ　悪イ気分ジャナイナ……　モット「応援」シテクレ！

雪だるま ： ウウ　寒イ……。……ヒ　ヒ　ヒェックション！
ウ～ン　てんしょん　上ガッテキターッ！　オ前　俺好キカ？　好キダッタラ「きっす」シテクレ！
「世界一　ぴゅあ　ナ　きっす」クレクレッ！

雪だるま ： 雪ダルマ　ダケニ　手モ足モ　出ナイケド　アリガトウ……　俺　満足……。
ソロソロ　コノ　世界トモ　オ別レネ……。

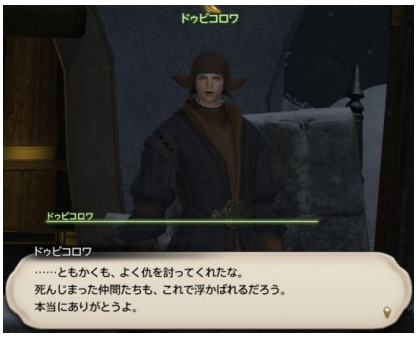
雪だるま ： サヨナラナノダ……。

マーコリン ： ……どうだった？　ヒソヒソ話をしていた奴の正体はわかったか？
えっ？　雪だるまが喋ったって？　またまたァ～、冗談はよしてくれよ。寒いぜ！

雪原に潜む戦慄

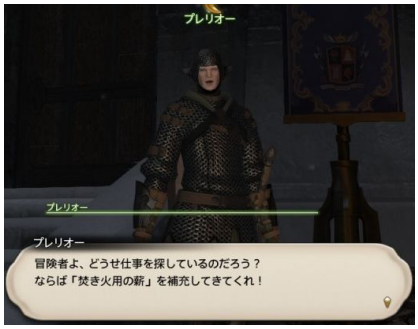
ドゥビコロワ ： た、大変だ！　ここに向かっている途中に、凶悪な魔物に襲われて、商隊が全滅しちまった！
ここまで逃げてこれたのはオレだけだ、クソッ！
あんた冒険者だろ！？　た、頼む！　あの魔物を探しだして、仲間の仇をとってくれ！
吹雪でよくは見えなかったが、とにかく恐ろしい化け物だった……。戦うときは、き、気を付けるんだぞ！

ドゥビコロワ ： ……なんてこった。そんなにちっこい奴が、あの凶暴な奴の正体だったのか。
見かけによらないっていうのは、人も魔物も一緒だな……。
……ともかくも、よく仇を討ってくれたな。死んじまった仲間たちも、これで浮かばれるだろう。
本当にありがとうよ。



アートボルグの薪集め

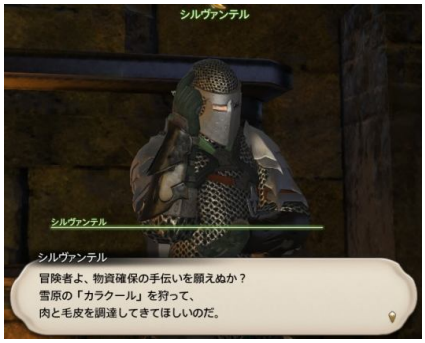
プレリオー ： こんなことで、冒険者に依頼を……。……しかし、この砦を離れるわけにもいかん。クソ……。
冒険者よ、どうせ仕事を探しているのだろう？　ならば「焚き火用の薪」を補充してきてくれ！
その辺りで薪を8束ほど集め、西の高台にいる「ステファノー」に渡してほしいのだ。
薪となる木は、雪に埋もれた木の辺りに落ちているはずだ。



ステファノー ： 遅いぞ！　キャンプ・ドラゴンヘッドからの、補給物資はどうしたんだ！？　……なに、薪を持ってきただと？
おっと、すまん……人違いだった。てっきり、食料調達に出かけた新兵だと思ってな。
わざわざ「焚き火用の薪」を届けてくれたのか。
この寒さだ、暖を取らないと凍え死んでしまうからな。今回は助かったが、このクルザスは冒険者が、
ウロウロしていいような土地ではない。覚えておくことだ。

黒羊たちが沈黙

シルヴァンテル ： このアートボルグ砦群は、ドラゴン族の襲撃の際、市民の避難場所に指定されている。
そのため、各砦には各種物資の備蓄を担保しているのだ。
冒険者よ、物資確保の手伝いを願えぬか？　雪原の「カラクール」を狩って、肉と毛皮を調達してきてほしいのだ。
調達し終わったら、その物資を各砦と物見櫓に届けてくれ。……この極寒の地においては、食料の多寡が生死を分ける。
くれぐれも、よろしく頼んだぞ。



マルシアレー ： これだけの物資でどうにかしろと……。いや、すまない……わざわざ届けてくれたというのに。
気を悪くしないでくれ。

ティローラン ： ごくろうさまです。人手不足だから、冒険者のありがたさが身に染みますよ。
体裁なんて気にせずに、もっと冒険者を頼ればいいのに。

セストゥニュー ： ご苦労、物資はたしかに受けとったぞ。……昨今、異端者どもが活発化していると聞く。
これが足りなくなるような事態にならぬといいが。

プレリオー ： シルヴァンテルめ、このような重要物資の運搬に冒険者を使うとは……。
……運搬、ご苦労だった。用が済んだなら去るがいい。

シルヴァンテル ： 配り終えたようだな、ご苦労だった。……昨今のイシュガルドは、情勢が不安定だ。
可能なうちに、できるだけの備えはしておきたいのだよ。

ある少壮騎士の悲劇

ステファノー ： それにしても遅い……。まさか、吹雪の中で道を誤ったのではあるまいな。
北の街道は、獰猛なワイルドダイルがいて危険だぞ……。
……む、冒険者か。新兵をキャンプ・ドラゴンヘッドへ遣いに出したのだが、いっこうに戻ってこないのだ。
悪いが、迎えに行ってくれないだろうか。

ステファノー ： ……む、冒険者か。あいつは、いただろうか？
……「ワイルドダイル」の腹に、この指輪が？　何ということだ、まだ未来ある少年の命を
こんな形で失うことになるとは……。
ドラゴン族と戦う日がくることを、あんなに待ち望んでいたというのに、無念だったろう……。
……報告感謝する。のちほど遺族にも伝えておかねばな……。

イシュガルドで生きる

ステファノー ： あいつの仇を討った貴公にしか頼めぬことがある。この形見の指輪を「キャンプ・ドラゴンヘッド」にいる遺族、
父親の「テオバラン」に届けてほしいのだ。
…そして、不名誉な死には触れず、ドラゴン族との戦いで雄々しく散ったと伝えてほしい。
これだけは、けっして違えてくれるな。頼む……。

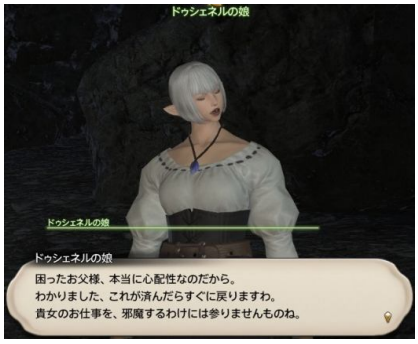
テオバラン ： ああ、テオバランは俺だが……。……指輪？　いったい何の話だ。
……これは死んだ妻の形見……　俺が息子に、仕官祝いにと授けたものだ。
それを冒険者のお前が届けてくれたということは……。
そうか、そういうことか……。……息子は、名誉ある死を遂げたのか？
……ドラゴン族と戦って死ねたのだな。ならば、息子も本望だろう。
我が家は代々、イシュガルドの武門の家柄だ。ドラゴン族との戦いで死ぬ覚悟は、常にできている。
しかし……早い、早過ぎる……。父親を残して先に死ぬ馬鹿がいるか、あの親不孝者め……！
……わざわざ伝えてくれて感謝する。この地は、あまり冒険者を歓迎しないが、俺はお前を迎え入れよう。

お嬢さん気をつけて

ドゥシェネル ： 我が娘がたったひとり、伴もつけずに「聖ダナフェンの落涙」へ出かけてしまったのだ。
昨今は、異端者が出没しているというのに……ああ！
貴様、冒険者だな！？　急ぎ「聖ダナフェンの落涙」へ向かってくれ！　必ずや我が娘を連れ帰るのだ！

ドゥシェネルの娘 ： ……まぁまぁ、お父様から頼まれて、わたくしを連れ戻しにいらしたと仰るの？
わたくしはただ、ここに聖水を汲みにきただけですのに。
困ったお父様、本当に心配性なのだから。わかりました、これが済んだらすぐに戻りますわ。
貴女のお仕事を、邪魔するわけには参りませんものね。
わたくしが聖水を汲んでいる間、貴女は周囲の様子を見てきてくださいませんこと？
……だって、本当に異端者がいたら、怖ろしいですもの。

怪しげな男 ： ななな、なんだ、お前はっ！　私がここで何をしていようと、お、お前には……かか、関係ないだろうっ！
まさかお前、わわ、私を異端者だと疑っているのではあるまいな！？　ふ……不愉快だ、失礼するっ！！



ドゥシェネルの娘 ： どうなさいましたの？　……あら、その手に握っているものはなんです？
妙な様子の殿方が、これを？　……その殿方、本当に異端者だったのかもしれませんわ。
ああ、なんて怖ろしい！　わたくしは先に「キャンプ・ドラゴンヘッド」へ戻ります。
貴女も早く、この場を立ち去ったほうがよろしくてよ！

ドゥシェネル ： 娘は戻ってきたが……　可哀想に、青い顔をして震えておるのだよ！　さあ、なにがあったか説明してもらおうか！
妙な男が、娘を見つめていただと！？　しかもそやつは、異端者かもしれんというのか！？
ふうむ……その異端者、我が娘が貴族だと知ってつけ狙っておったのやもしれんな……。
ああ、娘よ！　可哀想な、我が最愛の娘よ！　お前のことは、この父が守ってみせようぞ！

美しき白銀の毛並

コランティオ ： キミのような冒険者に、もってこいの仕事があるぞ！　我がフォルタン家は輸送部隊の脅威となっている魔物、
「スノウウルフ・パップ」に懸賞金を出しているのだ。
討伐の証に奴の毛皮を持ってくれば、金はキミのものだ。……奴は我が家の使用人や傭兵を、幾人もその牙にかけた。
たかがウルフと油断するなよ。それでは、励みたまえ。

コランティオ ： スノウウルフ・パップは討伐できたのか？　討伐できたのなら、その証を渡してくれ。
……うむ、たしかに「スノウウルフの粗皮」だ。これで少しは輸送隊も安心できるだろう。
さあ、これが報酬だ、受け取りたまえ。
そもそもは、我らが討伐に赴けば済む話なのだがな。現在、この拠点は仇敵ドラゴン族との戦いに備えている。
討伐に赴きたくとも、その余裕がないのだ。
外の者に対し、広く門戸を開いている我が家はともかく、排他主義の他家の戦力不足は大変なものと聞く。
……最近、私は思うのだよ。他家の重んずる名誉と威信……それは、本当に名誉であり威信であるのだろうか、とね。

惑いの妖火

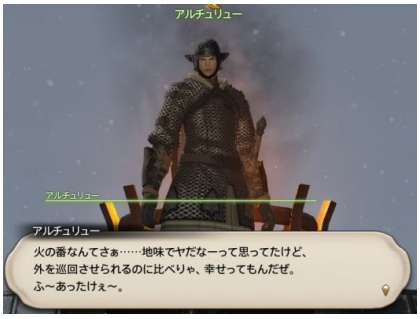
コランティオ ： ……それにしても、キミはずいぶん腕が立つようだな。キミのような冒険者にこそ任せたい仕事があるのだが、頼めるだろうか？
先日、偵察隊が吹雪で方角を見誤り、「悪鬼の胃袋」という難所にて立ち往生した挙句、死者まで出すという事故が起きた。
聞けば「ウィル・オ・ザ・ウィスプ」の放つ光を、キャンプの灯火と見間違えたという。ただでさえ、あの辺りは危険だというのに。
……このような事故を繰り返すわけにはいかない。ここより北東の「悪鬼の胃袋」に出向き、
「ウィル・オ・ザ・ウィスプ」を討伐してきてはくれないか。

コランティオ ： ……なんと、もうウィスプを倒したのか！？　ううん……ステキだ！　すっばらしいッ！！
キミの力が魔物を討ち砕く様、想像するだけで……。
……ごほん。興奮のあまり、つい我が主のような言動を……失礼。さ、さあ、これが報酬だ。受け取ってくれたまえ。

風舞う砦

アルチュリュー ： 火の番なんてさぁ……地味でヤだなーって思ってたけど、外を巡回させられるのに比べりゃ、幸せってもんだぜ。
ふ～あったけぇ～。
風が荒れたとき、かがり火を点検するのが面倒だけど。……そうだ、あんた、砦内のかがり火を見てまわって、
消えてるのがあったら、火を点けてきてくれねぇか？
少し前にすっげぇ寒風が吹いてさぁ……頼むよ。火を点けるには、この「小さな火種」を使ってくれ。
じゃ、よろしくな。う～さみぃさみぃ。

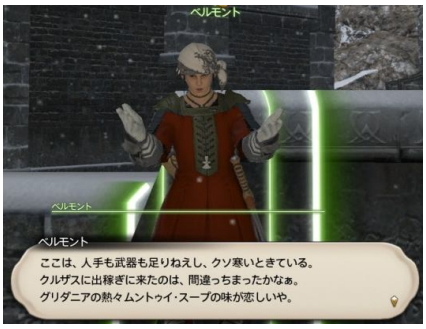
アルチュリュー ： 終わったみたいだな、ありがとよ。明かりにもなるし、暖もとれるかがり火は、
この風雪の中じゃ、欠かすことのできないものさ。
火の番ってのは、案外、重要任務なんだぜ。……地味だけどな。ふ～あったけぇ～。



クルザスの蛮神事情

ベルモント ： 俺はフォルタン家に雇われた傭兵さ。仕事は雑用ばかりだが、三度の飯は食えてる。とりあえずはな……。
おっと！　それより、大変なんだった！　フォルタン家の手配した荷車が、道中で立ち往生してるらしいんだ。
場所は、ここから東の道を行った先だ。ちょっと様子を見てきてくれないか。雑用係は雑用で忙しくてね、任せたぜ。

ベルモント ： おう、おつかれさん。……なるほどね、イクサル族の仕業だったとは。そうか、荷車の連中は全滅していたか……。
イシュガルドのお偉いさんは、ドラゴン族との聖戦に夢中。目先の蛮族問題は、下っ端に投げっぱなしときた。
まぁ、雑用の身には関係ないことだがね。
ここは、人手も武器も足りねえし、クソ寒いときている。クルザスに出稼ぎに来たのは、間違っちまったかなぁ。
グリダニアの熱々ムントゥイ・スープの味が恋しいや。



イクサル族の暗躍

ベルモント ： 俺はグリダニアから、出稼ぎにきているんだ。あそこではイクサル族との戦いに明け暮れていたんだが、
まさか、こんな山奥でも同じ相手を敵にすることになるとは。
そのイクサル族なんだが、最近どうにも動きが怪しいんだ。まるで黒衣森で奴らと一悶着あったときのような、妙な気配がする。
なぁ、あんた。イクサル族の拠点に行って、何か手掛かりがないか探ってきてくれないか。俺は雑用で忙しくてね、任せたぜ。

ベルモント ： よう、どうだった？　何か手掛かりはみつかったかい？
……これは「シュラウドユー原木」じゃないか。しかも、クルザスでは見かけない樹木、
黒衣森の北部森林にしか自生してないものだ！
こいつがイクサル族の拠点にあったってことは……黒衣森で伐採した樹木を、クルザスへと運びこんでるってことだ。
このまま、ドラゴン族との戦いにかまけていれば、クルザスのイクサル族入植地は、ますます大きくなるぞ。
まあ……戦いは俺の飯の種。それはそれで結構な話だがな。

我らは白羊師団

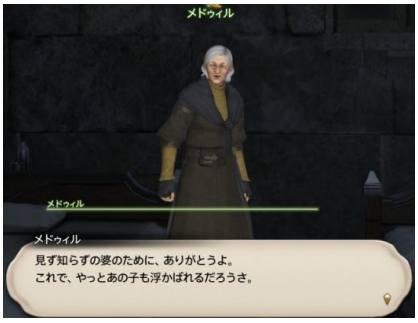
ベルモント ： クルザスで暗躍しているイクサル族の奴らは、どうも黒衣森の木々を伐採して、資材をこっちに搬送しているようだ。
奴らは「気球」で物資を空輸することができるからな。うかうかしてると、クルザスに築かれている
イクサルどもの入植地が、さらに拡大しちまう。
なあ、あんた。俺の同僚だった「イゾドレール」という男に、この書簡を渡して、イクサル族の動向を報告してくれないか。
奴の部隊は、今「フォールゴウド」に駐屯中のはずだ。
イシュガルドのためってわけじゃねぇが、イクサル族の思いどおりってのも業腹なんでな。
ここはひとつ、貸しを作っておくとするさ。

イゾドレール ： あ～痛たたた。「白羊師団の切り込み隊長」と呼ばれたこの俺が、怪我をしちまうとは不覚だぜ。
オレ宛に書簡……？　誰かと思えば、ベルモントからじゃねぇか。「白羊師団」の元軍師殿が、何が楽しくて雑用やってんだか。
……なるほどねぇ、クルザスにイクサル族か。オレたち神勇隊「白羊師団」にとってヤツらは宿敵だ。
俺たちに出来ることがあれば、力を貸すぜ！

弔いは胃袋の中で

メドゥィル ： 私にはね、息子がいたんだよ。だが、吹雪の日に「悪鬼の胃袋」に迷いこんだ末、魔物に殺されてしまった。
もし、あんたがこの婆の願いを叶えてくれるのなら、「ゴルゴタウルス」を討伐して、息子の仇を討ってはくれんかね？
この「カラクールの鮮血」を持っておいき。振りまけば血の匂いに誘われ、奴が姿を現すそうだ。
……くれぐれも、気をつけるんだよ。

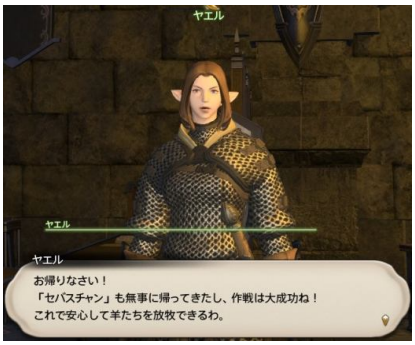
メドゥィル ： 無事に戻ってきたんだね。ゴルゴタウルスを倒してくれたんだね。……本当に、ありがとう。
この霊銀の祈鎖は……。息子のものじゃないか、懐かしいねえ。
このイシュガルドではね、ドラゴン族との戦いで死ねば、聖者になれるんだ。
だが、魔物との戦いで死んだ者は、ただの愚者さ。
息子は大事な偵察の任務中に死んだんだ。それでも、みんな知らぬ顔……。
遺品ひとつ、仇ひとつ、取りに行っちゃくれなかった。
見ず知らずの婆のために、ありがとうよ。これで、やっとあの子も浮かばれるだろうさ。



羊料理が大好物

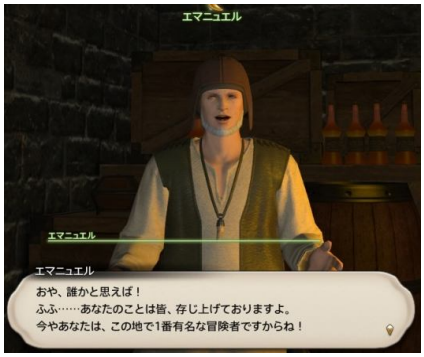
ヤエル ： 冒険者さん、あなたの腕を信じてのお願いがあるの。最近、周辺に家畜を食い荒らすオーガが出没するのよ。
これ以上、奴の好きにはさせられないわ！
そこで、とっておきの作戦を考えたの。私の大切な「セバスチャン」を囮にしてオーガをおびき寄せ、討伐するのよ！
……あ、セバスチャンっていうのは、私が飼ってる羊よ。あの子を捕まえるには、この「丈夫な荒縄」を使って。

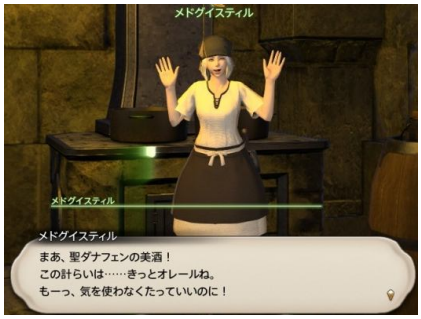
ヤエル ： お帰りなさい！　「セバスチャン」も無事に帰ってきたし、作戦は大成功ね！
これで安心して羊たちを放牧できるわ。
自分の仕事をきちんとこなす人は好きよ。あなたに依頼して本当によかった！　また、よろしくね！



とこしえの絆

オレール ： 貴公が、異端審問を止めてくれた冒険者だな？　会えてよかった、是非とも礼を言いたかったんだ！
フランセルぼっちゃんを救ってくれて、ありがとう。今は苦境のアインハルト家だが、
ぼっちゃんは、私たちの大切な主なんだ。
オルシュファン卿にも、礼をしたいのだが……　卿は、貴公を大変気に入っていると聞いた。
私からの差し入れより、貴公からのほうが喜ばれよう。
下にいる酒商人「エマニュエル」から酒を受け取って、厨房の「メドグイスティル」に渡してくれないか？
なに、代金は払ってあるから心配いらんよ。





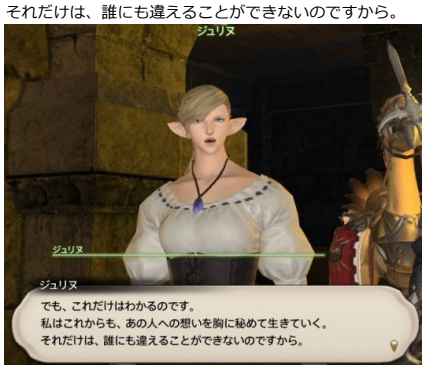
エマニュエル ： おや、誰かと思えば！　ふふ……あなたのことは皆、存じ上げておりますよ。
今やあなたは、この地で1番有名な冒険者ですからね！
……オレールからの使いで？　ええ、お話は伺っておりますとも。
どうぞどうぞ、こちらの酒をお持ちください。
こちらは、とこしえの絆を願って、けっして凍らぬ「聖ダナフェンの落涙」の水から作られた酒。
しがない酒商人が用意できる、最高の1本ですよ。

メドグイスティル ： あら、噂の冒険者さんが何のご用？　もしかして、オルシュファン様から逃げてきたとか！
まあ、聖ダナフェンの美酒！　この計らいは……きっとオレールね。
もーっ、気を使わなくたっていいのに！
四大名家っていうのはね、遠い昔、征龍将ハルドラス様と共に邪龍を討った偉大なる騎士様の末裔なの。
対立したりもするけれど……イシュガルドを守り支える仲間だもの。
助け合うのは当然だって、オルシュファン様も言ってるわ。
お酒を持ってきてくれて、ありがとうね。あなたからの差し入れだって伝えたら……あの人、きっと大興奮よ！

ウィッチドロップの谷底

ジュリヌ ： ウィッチドロップという谷を知っていますか？　あそこは「異端者」の疑いをかけられた者が、
戦神ハルオーネの審判を受ける場所なのです。
疑いをかけられた者が異端者であった場合……その者はドラゴン族から授かった力で空を飛ぶため、
すぐに弓で射落として、殺すのだそうです。
逆に、疑いをかけられた者が異端者でなかった場合……その者は谷底へ落ちて死ぬことで無実を証明され、
魂は戦神ハルオーネに救われるといいます。
かつて私が愛した人も、あの谷でハルオーネ様の審判を受けました。
審判の当日、あの人は私が作ったクリスタルの祈鎖を着けていた……。飛び散った飾り珠が、谷底に残っているかもしれません。
ウィッチドロップの谷底をくまなく探し、祈鎖に使った四連の「クリスタルの珠」を探してください。
すべて揃わなくても、1粒でも多く……お願いします！

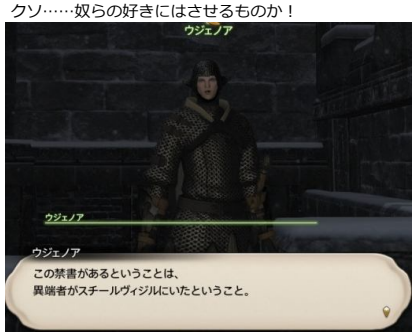
ジュリヌ ： どうでしたか？　お願いしていたものはみつかりましたか？
ありがとう、珠を3粒見つけてくださったのですね。見つからなかった最後の1粒は、
彼……マティニアンと共にあると信じましょう。
あの人が「異端者」だったのか、そうでなかったのか。……真実は、今となってはわかりません。
でも、これだけはわかるのです。私はこれからも、あの人への想いを胸に秘めて生きていく。
それだけは、誰にも違えることができないのですから。



異端の禁書

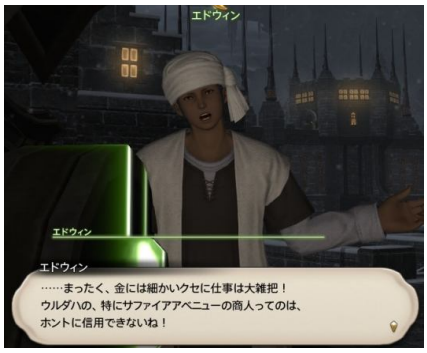
ウジェノア ： スチールヴィジル近辺で再び、ドラゴン族が目撃されたとの情報が入った。
だが、先日のフランセル卿の一件もあり、うかつに騎士を派遣することもできんのだ。
我らの代わりに、スチールヴィジルを調査してくれぬか？

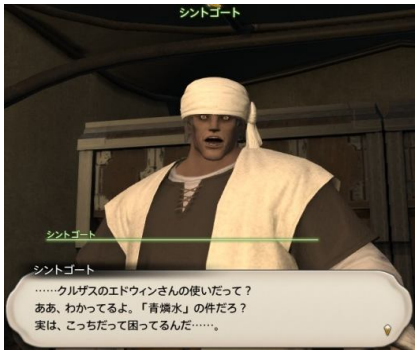
ウジェノア ： ……なにかあったようだな。報告を聞こう。
この書物は……！　教皇庁から禁書に指定されている異端の書ではないか！
この禁書があるということは、異端者がスチールヴィジルにいたということ。
異端者め、スチールヴィジルが再建されぬよう、ドラゴン族と協力し、見張っていたな。
クソ……奴らの好きにはさせるものか！



対竜バリスタ

エドウィン ： ちょっと聞いとくれよ！　ウルダハの商人に注文した「青燐水」が届かないんだ！
青燐水は、よく燃える青い液体でね。対竜バリスタ用の火薬を調合するには、欠かせないんだ。
空飛ぶドラゴン族との戦いじゃ必需品なのに、あの商人め！
あんた、ちょっと頼まれとくれよ。ウルダハの「シンドゴート」って商人を「問い詰め」て、
注文した青燐水はどうしたのか、聞いてきてほしいんだ。
……まったく、金には細かいクセに仕事は大雑把！　ウルダハの、特にサファイアアベニューの商人ってのは、
ホントに信用できないね！





シントゴート ： 何だ、俺に用か？　でかい取引のことで頭がいっぱいなんだよ。用がないなら話しかけないでくれ。
……クルザスのエドウィンさんの使いだって？　ああ、わかってるよ。「青燐水」の件だろ？
実は、こっちだって困ってるんだ……。

異端者の末路

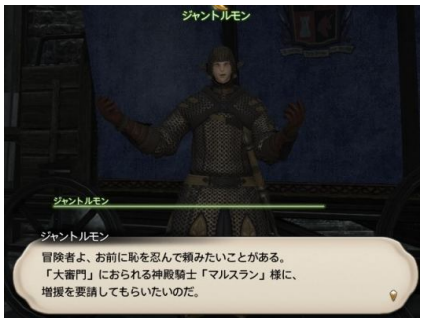
オンセネデル ： ちょいと手伝っておくれでないかい？　そこに異端者の死体があるからさ、
そいつを探って、出てきた物を大審門まで届けてほしいんだ。
異端者の死体なんて、普通はほっぽっておくもんだけど。今はいろいろ問題が起きてるだろう？
それで、異端者の持ち物を調べるっていうのさ。
汚れ仕事だから、冒険者にお願いしようと思ってね。……どうせなにも出やしないってのに、
お偉い方々の考えることはわからないねえ。

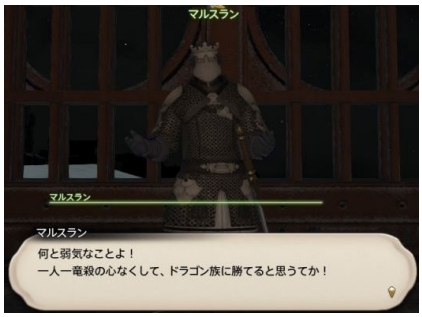
ショノーレー ： ふむ、貴様、何用か？
異端者の遺品を運んできたのか、ご苦労。さて、この中に有用な情報があれば良いのだがな……。
異端者とは、人の風上にもおけぬ奴ばらだが。我らが聖戦の役に立つと思えば、ククク……むしろかわゆいものよ。

神殿騎士への訴え

ジャントルモン ： 冒険者よ、お前に恥を忍んで頼みたいことがある。「大審門」におられる神殿騎士「マルスラン」様に、
増援を要請してもらいたいのだ。
たび重なるドラゴン族との戦いにより、住民は疲弊、騎兵たちの士気も低下している。
このままでは皆、潰れてしまうに違いない……。

マルスラン ： 冒険者風情が、私に何の用だ。……ホワイトブリムから増援要請？　住民も騎兵たちも、皆が限界だとな！？
何と弱気なことよ！　一人一竜殺の心なくして、ドラゴン族に勝てると思うてか！
ええい、むしろ物資の量を減らしてくれるわ！　気分が悪い、立ち去れ冒険者！

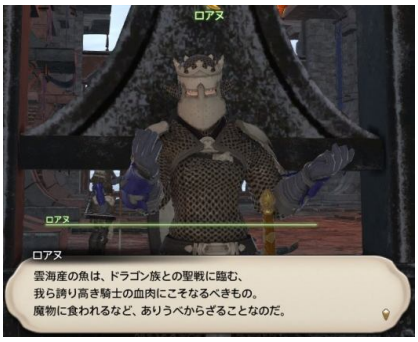




吹雪の中の鳥退治

ロアヌ ： 冒険者よ、お前に仕事をくれてやる。この近辺に棲む「バテラー」を5匹駆除してくるのだ。
我ら騎士はドラゴン族との聖戦の渦中にあり、卑しき雑事にかまけることなど許されていない。
ゆえに、特別にお前に任せる。ぬかるでないぞ。

ロアヌ ： ご苦労だったな。お前に討伐を命じた「バテラー」は食欲旺盛でな、雲海に生息する浮行魚を食い荒らしてしまうのだ。
雲海産の魚は、ドラゴン族との聖戦に臨む、我ら誇り高き騎士の血肉にこそなるべきもの。
魔物に食われるなど、ありうべからざることなのだ。



大審門の残照

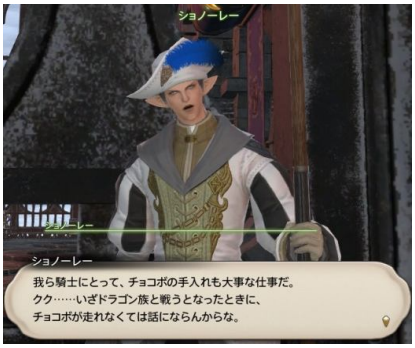
ショノーレー ： ふむ、たしか冒険者とは、卑近な問題の解決を専門に引き受けるのだったな。
ちょうど良い、貴様に簡単な雑役をくれてやろう。
にっくきドラゴン族どもの襲撃で、大審門の一部が砕け、都への道に破片が散らかっているのだ。
急ぎ「大審門の瓦礫」を撤去せよ。

ショノーレー ： うむ、ご苦労。これで騎士たちが通行しやすくなるだろう。
かつてこの門は、堂々たる威容を誇っていたのだが、度重なるドラゴン族の襲撃により、今や見る影もない。
ククク……やはり奴らは根絶やしにせねば。

聖戦の一助

ショノーレー ： 事のついでだ、貴様にもうひとつ雑役をくれてやろう。その辺りに棲む「チンチラ」を倒し、
「チンチラの獣脂」を入手してくるのだ。
……そうだな、数は4つほどでいい。我ら神殿騎士の一助となるは、聖戦の一助となるに同じ。
身に余る誉れにむせびつつ、急ぎ片を付けて参るがいい。

ショノーレー ： どうだ、「チンチラの獣脂」は入手できたか？　頼んでいたのは4つだぞ。
ふむ、上質なチンチラの獣脂だな、ご苦労。これは軟膏にして、チョコボのしもやけに塗るのだ。
我ら騎士にとって、チョコボの手入れも大事な仕事だ。ククク……いざドラゴン族と戦うとなったときに、
チョコボが走れなくては話にならんからな。



眷属たちの跳梁

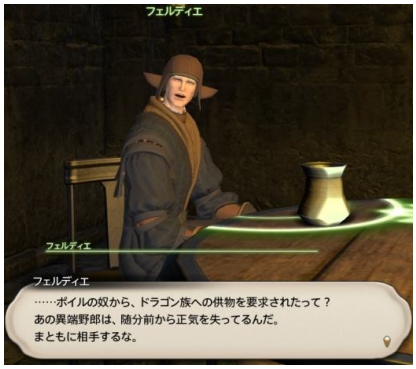
フォシリアン ： 冒険者よ、貴様に我ら騎士団の手伝いをさせてやろう。我らの進軍の妨げになっているドラゴン族の眷属、
「ドラゴンフライ・シーカー」を討伐してくるのだ。
奴らはドラゴン族のような知性もない、獣同然の魔物だが、主であるドラゴン族に付き従う習性がある。
森の中で「ドラゴン族の甲鱗」を使えば寄ってくるだろう。

フォシリアン ： ドラゴンフライ・シーカーを倒してきたか。これで多少なりとも、ストーンヴィジル攻略の障害を
取り除くことができたな。
眷属を使役して我らの行く手を阻むとは、いかにもドラゴン族らしい、姑息な策よ。
……今度こそ、我ら騎士団が駆逐してくれる！

獄中の異端者

ボイル ： ヒハハハハハハハ！　ドラゴン族こそ至上、ドラゴン族こそ我が主！
愚民どもよ、偉大なるドラゴン様を畏れよ、讃えよ！
そこなる愚民、ドラゴン様への供物を持てい！　卑しき騎兵「フェルディエ」に命じれば、何かしら差しだすであろうよ！

フェルディエ ： ……ボイルの奴から、ドラゴン族への供物を要求されたって？　あの異端野郎は、随分前から正気を失ってるんだ。
まともに相手するな。
この「ラットの死骸」でもくれてやるといいさ。泣いて喜んで、ドラゴン様に献上するだろうよ。

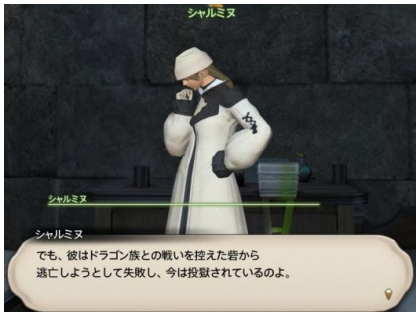


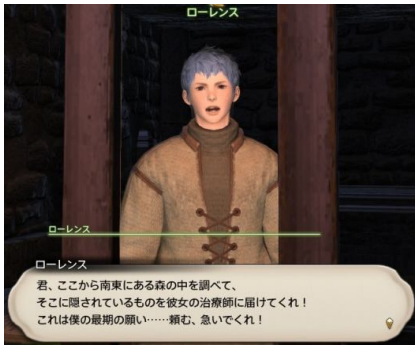
ボイル ： さあ愚民よ、悔い改めるのだ。ドラゴン様への供物をここに差しだすがよい！
おお、すばらしい！　なんとかぐわしき血の臭いか。ドラゴン様、どうぞお受け取りください！
……フッ、フヒッ、フヒヒヒヒヒ！　ククケケケケケケケケケ……。

フェルディエ ： はあ……暴れるよりはいいが、面倒くさい奴だぜ。これに懲りたら、異端者には近づくなよ。
あんたにまで異端者の嫌疑がかかるぜ。

恋人たち

シャルミヌ ： かわいそうに……どうしたらいいのかしら。この患者さんには、将来を誓いあった恋人がいるの。
でも、彼はドラゴン族との戦いを控えた砦から逃亡しようとして失敗し、今は投獄されているのよ。
彼女は、もう長くはないわ。……そこで、自由な立場の冒険者さんにお願いがあるの。
獄中の彼女の恋人に、病状を伝えてちょうだい。





ローレンス ： 冒険者が罪人に何の用だ。……何だって、彼女がもう長くない！？
君、ここから南東にある森の中を調べて、そこに隠されているものを彼女の治療師に届けてくれ！
これは僕の最期の願い……頼む、急いでくれ！

フリジア ： はぁ、はぁ……ロー、レンス……　お願い……無事で……いて……。

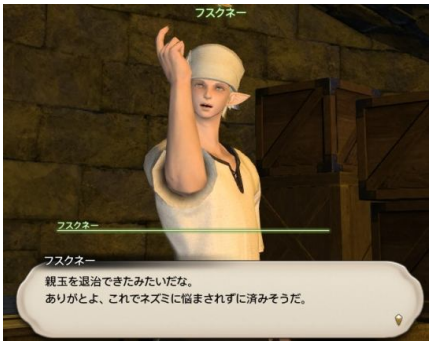
シャルミヌ ： かわいそうな患者さん……。獄中の恋人さんは、何か仰っていましたか？
これは……「ウルダハ製の錬金薬」ではありませんか！　……患者さんの恋人がこれを？　こんなに貴重な薬をどこから……。
まさか、砦から逃亡しようとしたのは、この薬を手に入れるためなのでは……。
……なるほど、捕まる前に埋めて隠したのですね……。
と、とにかく、届けてくれてありがとうございます。この薬があれば、彼女を助けられるかもしれません！

小さな略奪者

フスクネー ： 最近、でっかいネズミが出ては、大事な食料をかじっていきやがるんだ。
しかも厨房だけと言わず、砦のあちこちに出没しやがる！
ネズミどもの目当ては、野菜くずや残飯だ。冒険者さんよ、その辺りを念入りに調べて奴らを退治してくれないか？

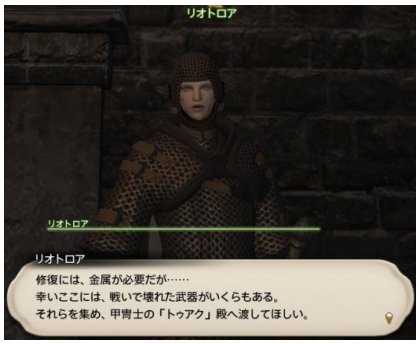
フスクネー ： おう、助かったよ。食料を狙っていたラットは片付いたみたいだな。
しかし、いくらなんでも数が多すぎる。きっと地下に大きな巣があるんだろう。
大元から叩かないと、完全な駆除はできねぇだろうな。
ネズミどもが出没する場所をみるに、おそらくこの砦の外側に、巣に通じる穴があるはずだ。
行って、奴らの親玉を倒してきてくれよ。

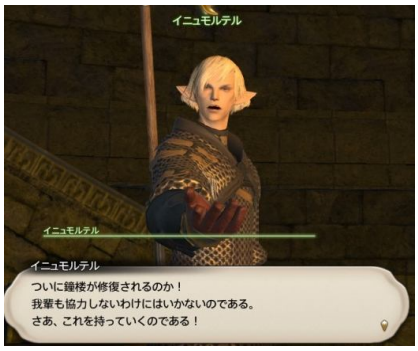
フスクネー ： 親玉を退治できたみたいだな。ありがとよ、これでネズミに悩まされずに済みそうだ。
……ここのところ、ますます寒くなっているからな。ネズミどもも、食うのに困ってるんだろう。
だからといって、俺たちの食料を分けてはやれないがな。

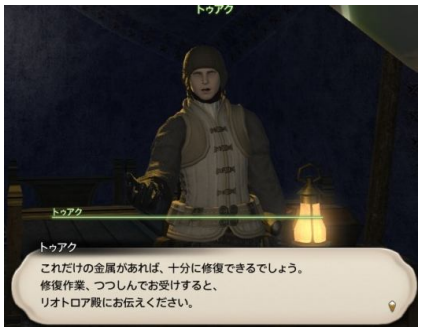


鳴らない釣鐘

リオトロア ： この釣鐘は、ホワイトブリムのシンボルなのだが、しばらく前に壊れたきり、今は放置されているのだ。
聞くところによると、貴殿は、たいそう信の置ける人物だそうだな。どうだろうか、釣鐘修復に力を貸してくれまいか？
修復には、金属が必要だが……　幸いここには、戦いで壊れた武器がいくらもある。
それらを集め、甲冑士の「トゥアク」殿へ渡してほしい。







イニュモルテル ： ついに鐘楼が修復されるのか！　我輩も協力しないわけにはいかないのである。さあ、これを持っていくのである！

ベネディクト ： 壊れた武器が欲しいだと？　ほう、釣鐘の修復に使うのか。あるにはあるが……そらよ、これでいいのか？

トゥアク ： どうなすった？　なんぞ、私にご用ですかな？
あの釣鐘を修復したいと？　……たしかに、私も気になっておったのですよ。
これだけの金属があれば、十分に修復できるでしょう。修復作業、つつしんでお受けすると、リオトロア殿にお伝えください。

リオトロア ： トゥアク殿が引き受けてくれたか。おお、それは喜ばしい！
イシュガルドは戦時下にある。ゆえに、物資は全て戦いそのものに回すべきと皆、考えがちなのだ。
しかし、この聖戦を制するには、形ある拠り所……　我らの心の象徴を守ることも、
また肝要と私は考えるのだよ。

さまよえる治療師

アスティディアン ： ホワイトブリム前哨地の周辺は、ドラゴン族以外にも、凶暴な魔物が徘徊しています。
おかげでいつも、病院はてんてこ舞い。どの職員も、朝から晩まで出ずっぱりで……
このままでは、治療する側が倒れてしまいます。
そこで、新しい治療師を雇うことにしたのです。よろしければ「キャンプ・ドラゴンヘッド」まで、
その治療師を迎えに行ってくれませんか？

プレートニュー ： ……ホワイトブリム前哨地の新人治療師ですか？　彼なら、とっくのとうに旅立っていきましたよ？
どうやら、行き違いが発生しておるようですな。ここまで行き会わなかったということは……
もしかすると、道中で迷っておるのかもしれません。
これは困りましたね……。冒険者さん、あの子を探していただけませんか？
……少々トンマですが、手塩にかけて育てた子なのです。
この「強化熱狂薬」をお持ちください。迷っているのだとしたら凍えていることでしょうから。どうか、よろしくお願いします。

道に迷った治療師 ： ぎぎ……さむい……うごけ、ない……　「強化熱狂薬」を、もってくるんだった……ぐぎぎ……。
おお、おおおおおおっ！！　体があったかい！　動ける、動けるぞぉぉぉっ！！

道に迷った治療師 ： ありがとう、親切なミコッテ族さんっ！　これでホワイトブリム前哨地まで……
……って、出たぁぁ、魔物ぉぉぉぉぉぉおっっ！！　助けてぇえぇっ！！

道に迷った治療師 ： また助けてもらっちゃいましたね。本っ当に、ありがとうございます！
お怪我をなさった際には、ぜひ、ホワイトブリム前哨地の病院へ来てください。
今回のお礼に、心をこめて治療しますから。それでは！

アスティディアン ： 治療師を助けてくれたそうですね？　彼なら、ちゃんとここにたどり着いていますよ。
ただ、駆けこんでくるなり失神して、今は自分のほうが治療を受けていますがね。
これから魔物より恐ろしい仕事が待っているというのに、あの様子で務まるのかどうか……。
やれやれ、今から先が思いやられますよ。

分かれの言葉は雪に消え

ダインバート ： あんた、冒険者だろ？　騎士たちには内緒で頼みをきいてくれないか。……弟を脱獄させたいんだ。
オレの弟は、敵前逃亡の罪で投獄されちまった。だが、ドラゴン族との聖戦から逃亡する者は異端者だなんて、
そんな言いがかりがあってたまるかよ！
あいつは無実だ！　病気の恋人を助けるため、薬を買いに行っただけなんだ！！　オレは、無実の弟をそのままにしておけない。
……今見張りをしているのは、居眠り「フェルディエ」だ。誰にも見つからないように、こっそりと近づき、
ヤツから「地下牢獄の鍵」を手に入れてくれないか。
鍵は、鉄格子越しに弟の「ローレンス」に渡してやってくれ。オレはその間に、足がつかないように工作してくる。
……本当にすまない、あんたにしか頼めないんだ……。

ローレンス ： あ……あんたは、この間の冒険者じゃないか。何故、こんな牢獄にまた来たんだ？
そうか、兄さんが僕のために……。ありがとう、僕は逃げることにするよ。
でも、必ずここに戻ってくるつもりだ。彼女を迎えに、ね。

ダインバート ： ……その様子なら弟をうまく逃せたようだな。ありがとうよ。あんたに罪が被らないように工作済みだ、安心してくれ。
異端者嫌疑に脱獄……　もうあいつは、この地にはいられない。まぁ、ここにいたって、待っているのは刑死だけだがな。
グリダニアでもウルダハでも……　どこでもいいから、遠くに逃げてくれればいい。
もう二度と会えないかも知れないが、死ぬよりマシだよ。

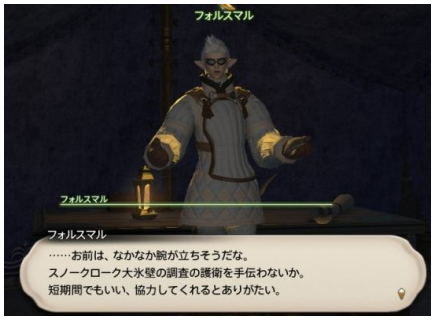
馳せる功名心

ベランジョア ： この間、哨戒任務に就いていたときさ。オレはイシュガルド本土から流れてきたと思われる、
手負いのドラゴン族を1匹、バリスタで仕留めたんだ。
だけど、夜中のことだったから、誰も信じてくれねえ。なんとかして、仲間にオレの武勇を証明してやりたいんだ。
この辺りには、まだ奴の死骸が残っているはず。死骸を探して「ドラゴン族の骨」を見つけてきてくれよ。

ベランジョア ： 「ドラゴン族の骨」は見つかったか？　この手柄がフイになるなんて悔しすぎる！
……こ、これはまさしく「ドラゴン族の骨」だ！　うひょおおおお！　やったぜ！　やっぱりオレの腕は最高だ！
これでオレも念願のドラゴンスレイヤーだ！　本土の教皇猊下に、お褒めの言葉をいただけるに違いない！

そびえる大氷壁

フォルスマル ： 我々は、スノークローク大氷壁の調査をしている者だ。あそこは大変に危険な場所だから、護衛に傭兵を雇っていたのだが……。
奴ら、周辺の魔物に恐れおののいて、我先に逃げだしてしまったのだ。まったく、あの腰抜けどもときたら！
……お前は、なかなか腕が立ちそうだな。スノークローク大氷壁の調査の護衛を手伝わないか。
短期間でもいい、協力してくれるとありがたい。
詳しい話は「スノークローク大氷壁」の「オルディリク」に聞いてくれ。では、頼んだぞ。



オルディリク ： ……フォルスマルから話を聞いて来たって？　ああ、よかった。助かるよ冒険者君。
このままでは、調査を続行できないところだったんだ。
騎兵たちにも協力を求めたんだけど、ドラゴン族との戦い以外に割く戦力はないと断られてしまってね……よろしく頼むよ。

安らかな調査のために

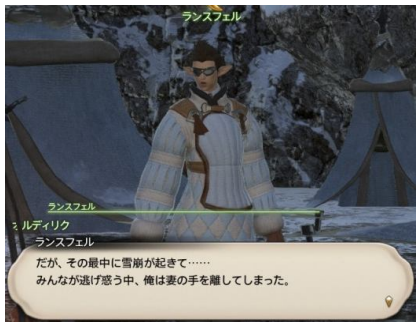
オルディリク ： さっそくだけど、魔物の排除をお願いしたいんだ。「ヒッポセルフ」を3体討伐してほしい。
奴らは、たまにやってきては調査の邪魔をして困ってるんだ。

オルディリク ： 退治してきてくれたか、ありがとう。……そういえば、君はもう西のスノークローク大氷壁を見たかい？
あそこには、西クルザスに続く隘路があったんだけど、第七霊災後の寒冷化の影響で、
今やあのとおり、巨大な氷の壁ができてしまった。
……あの大氷壁をどうにかしないことには、西方地域に通じる主要な街道が使えない。
その解決方法を探ることが、調査の目的のひとつなんだよ。

凍りついた記憶

ランスフェル ： あんた、俺たちの護衛の人だろ？　ある遺体を探したいんだが、手を貸してくれないか。
俺は心の傷のせいで、あそこに近づくことすらできなくてな。
実は、スノークローク大氷壁西部には遺体が埋まってるんだ。……俺の故郷、ファルコンネストの住人たちさ。
探してほしい遺体は、俺の妻のものだ。
妻は俺が贈った指輪を着けているはず。この砕氷ピックを使って、妻の遺体を見つけだし、その指輪を持ち帰ってくれ。

ランスフェル ： ……どうだった、妻の遺体は見つかったか？
……あぁ、たしかに妻に贈った指輪だ。あんたの仕事は護衛だってのに、手間をかけたな。
霊災直後、大氷壁のあたりには、まだ細い道が通っていた。……ファルコンネストに住んでいた俺たちは、
そこを通って、都に避難しようとしたんだ。
だが、その最中に雪崩が起きて……　みんなが逃げ惑う中、俺は妻の手を離してしまった。
ありがとう……あんたのおかげで、この5年間止まっていた俺の時間も動きそうだ。
妻を弔って、彼女のためにも前向きに生きていくよ。

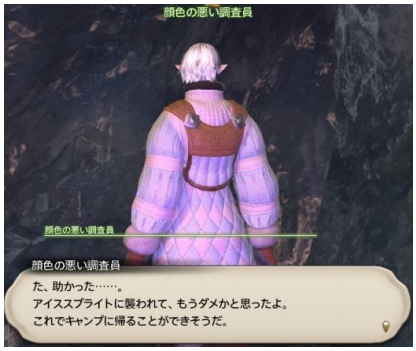


冷たい妨害者

オルディリク ： 実は、大氷壁の調査が順調だったことなんてないんだ。アイススプライトにも、よく邪魔されているしね。
そこで、君に調査隊員の捜索を頼みたいんだ。大氷壁へ標本採取に向かわせたんだけど、少々、帰りが遅いようでね。
魔物に襲われて、立ち往生しているのかもしれない。急いで彼を探してくれるかい？

顔色の悪い調査員 ： た、助かった……。アイススプライトに襲われて、もうダメかと思ったよ。これでキャンプに帰ることができそうだ。

オルディリク ： おかえり、冒険者君。さきほど隊員の帰還を確認したよ。彼が無事戻ってこれたのは、君のおかげだ。
君の協力で、調査も進みそうだよ。こんな過酷な環境での調査は大変だけど、クルザスの人々のためと思えば頑張っていけるさ。

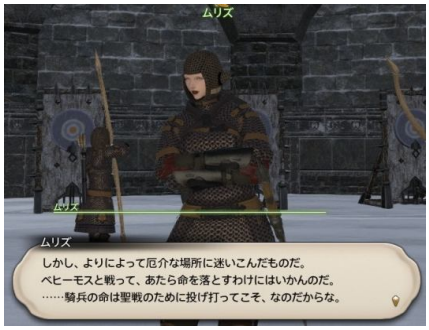


戦慄の大魔獣

ムリズ ： 友軍の偵察兵から、リンクパール通信で救援要請が届いた。どうやら吹雪に遭って道を誤り「ベヒーモスの縄張り」に迷いこんでしまったらしい。
彼は体力の低下で身動きがとれんようだ。冒険者よ、この雪道を踏破する自信があるなら、
この「救難用ブランデー」を彼に届けてくれないか？
間違ってもベヒーモスとやり合おうなんて思うな。……奴は伝説の魔獣、お前などひとたまりもないぞ！

遭難した騎兵 ： こ、こんなところに……なぜ冒険者が……？　無茶しやがって……。ベヒーモスに感づかれたら……どうする……。
こ、これは……ブランデーか……。ありがたい、凍えきった体に染み渡る……。これなら自力で帰還できるだろう。

ムリズ ： ご苦労だったな、冒険者。体さえ温まれば、何とか自力で戻れってこれるだろう。
しかし、よりによって厄介な場所に迷いこんだものだ。ベヒーモスと戦って、あたら命を落とすわけにはいかんのだ。
……騎兵の命は聖戦のために投げ打ってこそ、なのだからな。



崖っぷちの男

ブリアネ ： ちょうどいいところに来てくれた！　どうやら仲間が崖下に落ちちまったらしいんだ。あんた、悪いが手を貸してくれないか。
幸い、落ちた仲間は生きているらしい。すでに別の仲間が救助に向かい、崖の上から確認したんだ。
救助に向かった仲間が、崖の上で控えてる。城にある「丈夫な荒縄」を拾って、そいつに届けてやってくれ！

救助に来た騎兵 ： あんた、何の用だ？　……救助に手を貸してくれるのか、助かるよ！　俺の持ってる縄じゃ、長さが足りなかったんだ。
お前と俺の縄を繋げりゃ、十分だ！　はやく「丈夫な荒縄」を、崖下の仲間に渡してやってくれないか！
……だが、どうやって渡せばいいんだ？　ただぶら提げたんじゃ、風に流れちまうだろうし。
まさか、飛び降りていくわけには……いかないよなあ？

滑落した騎兵 ： おわっ、お前、崖を飛び下りてきたのか！　でもさ……救助者まで飛び降りてどーすんだ！
とーぜん、何か考えがあるんだよな！？　な！？
……なるほど、縄が風に流されちまうから運んできたと。考えたじゃねぇか、冒険者さんよ。
こいつがあれば崖の上まで登れそうだ。ありがとな！

ブリアネ ： 落っこちた仲間の様子はどうだった？　……よかった、無事に戻ることができそうだな。
冒険者の手を借りたと知れたら、あとでお叱りを受けそうだが、仲間の無事には代えられん。
あんたには素直に礼を言うよ、ありがとうな。

ギルドリーヴ開放「ホワイトブリム前哨地」

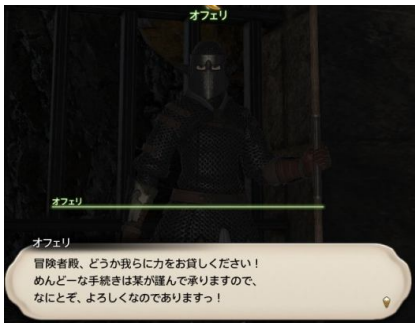
ブワリノー ： 冒険者よ。「ギルドリーヴ」をやってみる気はないか？
……すまぬ、失礼した。私はブワリノー、冒険者ギルドの一員として、こうして「ギルドリーヴ」の発行を請け負っておる。
魔物退治や物資の調達など、この「ホワイトブリム前哨地」に寄せられた依頼を、
「ギルドリーヴ」として冒険者に斡旋するのが私の役目。
もしも、お主が仕事を受けてくれるなら……　まずは、お主の実力を見せてくれ。未熟者に、危険な依頼を任せられぬゆえ。
まず最初に、お主にはこのリーヴをこなしてほしい。私が扱ってる依頼のひとつだ。
この依頼は、物資輸送経路の安全確保が目的。依頼人は、たいそう困っておるようだ。
基本的には、指定地域の野獣を退治してもらうのだが……　だが、大型の魔物が現れることもあるから……　気を抜いてはならぬぞ？

ブワリノー ： 待っていたぞ、リーヴを達成したようだな。実に見事な働きだ、報酬を受け取ってくれ。
なかなか見事な仕事ぶり。依頼者も、お主の働きに満足することだろう。次なる依頼にも、ぜひお主の力を貸してほしい。

ゼーメル要塞の調べ

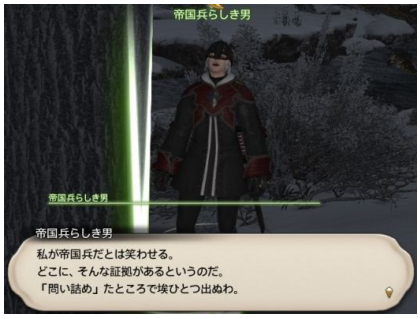
カリロー ： あなたの活躍については聞き及んでおります……。どうかあなたの力を、今一度お貸し願えませんか？
ここから北西に行ったところに、デュランデル家が盟友、ゼーメル伯爵家の要塞……　「ゼーメル要塞」があります。
しかし「ゼーメル要塞」は建築が中断されて久しく、現在は、魔物の巣窟になってしまっているのです。
奪還にあたって、ぜひともあなたの力をお借りしたい。
入り口に控える「オフェリ」にお声がけくだされば、諸々の手配は整いましょう。なにとぞ、お願い申しあげます。

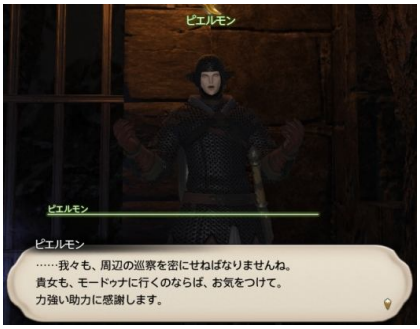
オフェリ ： この「ゼーメル要塞」は、ドラゴン族の襲撃に備えて、我がゼーメル家が天然洞窟を利用しつつ、
建造を進めていた要塞であります。
しかし、工事中に妖異が現れ、作業は中断！　挙句に、その隙をついて帝国兵が侵入する始末！
もー、しっちゃかめっちゃかだったでありますっ！！
帝国の連中こそ退いたものの、事の発端となった妖異は残されたまま……。当然のことながら、建造計画はとん挫！
ドラゴン族との聖戦いよいよ激しく、こちらの問題を解決しようにも、戦力を割くわけにいかないのであります……。
冒険者殿、どうか我らに力をお貸しください！　めんどーな手続きは某が謹んで承りますので、
なにとぞ、よろしくなのでありますっ！



秘石の塔の監視任務

カイリアン ： もしや、と思っていたのですが……　貴女はアインハルト家の異端者嫌疑を晴らしてくれたという、冒険者ではありませんか？
……やはり、そうでしたか！　わたしもアインハルト家に仕える騎兵です。
誠実な貴女に、ひとつ大事な任務をお願いしたいのです。
ここ秘石の塔は、帝国基地の監視所でもあります。近頃、彼らは動きが活発でして……
貴女には、この地に侵入した帝国兵を一掃してほしいのです。
3つの監視地点を巡り、帝国兵の痕跡がないか見てください。見回りが終わったら「オーラムヴェイル」の
「ピエルモン」に報告してください。頼みましたよ。





帝国兵らしき男 ： 私が帝国兵だとは笑わせる。どこに、そんな証拠があるというのだ。「問い詰め」たところで埃ひとつ出ぬわ。
……ぐぅっ、いや、それは……見ればわかるであろう！　て、撤退ーーッ！

ピエルモン ： ……なんと！　3ヶ所すべてで、帝国兵が見つかったですって！？
連中は、モードゥナに築いた拠点から、時折やってきて、何やら調査しているようなのです。
……我々も、周辺の巡察を密にせねばなりませんね。貴女も、モードゥナに行くのならば、お気をつけて。
力強い助力に感謝します。